



AIDS UPDATE No.129 2020/1/10

発行者: 広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351
中四国エイズセンター <http://www.aids-chushi.or.jp>

令和元年度「四国地方の診療医師及びスタッフのためのHIV講習会」

開催報告～みちのく高知旅は実り多き哉～



お久しぶりです！ヤマサキです！久しぶりすぎて「あなたは誰？」という声も聞こえてきそうですが、私は今もHIV診療に携わっております。元気にしてたかどうかはこれまでの登場機会からお察しください

いませ。挨拶はこれくらいにしておきまして、今回は記念すべき令和元年度に開催しました「四国地方の診療医師及びスタッフのためのHIV講習会（9月29日（日）13：30～16：40）」に参加しましたので、内容・雰囲気をお伝えします！

まずは基調講演について。兵庫医科大学病院の澤田 暁宏先生をお招きして「長期療養が必要なHIV陽性者のマネジメント」というお題でご講演を賜りました。内容をギュッとまとめると「現代の日本ではHIV→AIDS発病→死という流れはほぼなくなり、それに伴いHIV患者の高齢化および長期療養に関する問題が取り沙汰されている。HIV新規感染者をゼロにすることが今時点では難しいため、全HIV患者を大学病院で診療し続けることは不可能であり、ウイルスコントロール良好な患者に対しては専門知識も特別な対応も必要ないので、市中病院ひいては老人福祉施設でも診ていただけますよ？（診てもらえますよね？）」という感じでした。明朗快活なご講演で、私ヤマサキには真似することのできない素晴らしいご講演でした！

続いて症例検討について。いつもであればここでヤマサキの登場！という流れですが、今回はただ単にオーディエンスで登場機会なし…。3時間も電車に揺られて「高知に何しにきたん？」状態。まあ講習会を開く側の人間として勉強しにきたということで一旦飲み込んでおきまして、本題に戻しましょう。内容は高知大学医学部附属病院の中村 美保看護師の発案により、「脳梗塞のあるHIV陽性者の受入をする際に、どのような準備が必要か」という題を設定し、各テーブルに医師・看護師・ソーシャルワーカー・臨床心理士を所属先が極力重ならないように配してのグループディスカッションが行われました。HIVの知識は十分あるがいざ受け入れるとなった

時の細かいことに関してはこれまで講演で述べられることが少なかったことが功を奏し(?)、ディスカッションは大盛り上がり！受け入れに対して消極的な施設であっても、具体的に自施設で対応するためには何

が必要かを考える必要性が生じたことで、基調講演で得た知識が胸にストンと落ちていた方が多い印象でした。参加者の感想でも、非HIV感染者と同様のこと（住環境や家族、ADL等）を把握することが重要で、HIV陽性者の受け入れで特別なことはない、ディスカッションで顔つなぎができたのでいざとなったときに連携が十分とれるという実感が湧いたなどあり、大成功といえる内容でした。うちでも丸パクリさせていただきます！

これで講習会も終わりかあ～という流れになったため、ヤマサキはツライ帰りのことに思いを巡らせ始めたところ、中村看護師が「オーディエンスの方々に講習会の感想・意見を聞いてみましょう！」と突然の振りが！不意を突かれたヤマサキは「マジかあ～、何も考えてなかったわ…」と思いながら、無い頭をフル回転させながら考え始めたところに、中村看護師がヤマサキがトップバッターと言わんが如くズンズンと近寄ってこられ、「ああ詰んだ…グダグダなコメントしかできねえ…」と覚悟を決めた瞬間に、「では、せっかく広島からこられた齊藤先生！よろしくお願います。」との意表を突く振りが！！「オイ！違えわ！ヤマサキだわ！ザキヤマなら言われ慣れてるがそれは新しいな！」と思うと同時に「ツッコミ入れられるからコメントする時間が長くなって助かった」と感謝しながら、アタフタとコメント終了。今度からは話す内容を用意しておきます…、ハイ…。

講習会の終わりに藤井室長から「なるほど！そうだよね！」というお言葉があったのでご紹介します。「HIV患者を診ているということで風評被害に遭うのではと気にされる施設がありますが、うち（広島大学病院）を見てどう思いますか？患者数は全く減っていません。この事実をご認識いただき、是非とも皆様方のご施設でもHIV感染者を受け入れていただきたい。」長年HIV診療に携わり、出前研修も数多く実施してきた方の切実な願いが込められているなとヤマサキの心にも深く響きました。このような重みのある発言ができるようになる日は遠いなと思いつつ、今はまだ軽いまま地道と思うヤマサキでした。

それではまたヤマサキが登場するまで皆様お元気で！
See you !

ヤマサキ ナオヤ





堂々完成！新しくなった熊本城ホールで開催 第33回 日本エイズ学会 参加報告



初めての参加。きれいな会場で充実の内容に感銘。
今後の支援活動へ活力もらう。

エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 大成杏子

11月27日から三日間、熊本城ホールにて開催された第33回日本エイズ学会へ参加しました。日本エイズ学会への参加は初めてでしたが、様々な立場の方で構成されていることに驚きました。

シンポジウム、演題のどれを切り取ってもとても勉強になり刺激になりました。広島に帰るころには頭の中がパンクしそうでしたが、印象的だったことを三つにまとめます。

まずは、ポジティブトークセッションとメモリアルサービスです。それぞれの語りには、日常の中で吐露出来ずにきた胸の内を感じました。HIVと共に生きている方からの「時間がなにかを変えてくれるんだ」という言葉には、その人だから語れる心の奥の強さを感じずにはられません。

そして、いくつかの話題提供の中で耳にしたキーワード「疾病と共にある社会参加」。飽食で高齢社会の現代は一病息災の時代です。誰しもが何かしら持っている慢性的な疾患の一つに過ぎない、HIV陽性もまたそうである。社会に投げかけていくべき大きなメッセージだと思います。

最後に、昨今の研究ツールとしてテキストマイニングを活用した共起ネットワークによる分析が演題で散見されました。未熟な私にはとても斬新な分析に感じましたが、今後、心理・社会的な研究における手法としても是非学び、取り入れたいです。

エイズ医療対策室SW半年の若輩者の私ですが、以前、満屋裕明先生がアメリカで研究されていたというノンフィクションを拝読していたので、壇上の先生の姿についてミーハーな気持ちになりました。

プログラムの合間にHIV診療チームのメンバーで熊本城を見物することができたことも今回の良き思い出です。

次回、第34回日本エイズ学会は、
2020年11月27、28、29日

千葉県の幕張メッセで開催の予定です。



こんにちは。
公認心理師の杉本と申します。

今年のエイズ学会では、
薬物依存をテーマに発表
をしました。

発表を通して、改めてチ
ーム医療や自身の臨床につ
いて考える機会となっただ
けでなく、これからの支援
に活かせる示唆をいただ
くことができ、充実した3
日間となりました！

発表が終わり、ほっと
しました！

喜花



第10回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議

～歯科衛生士 岡田美穂～



2019年11月10日(日)岡山コンベンションセンターにおいて、中国四国地方HIV陽性者の歯科診療に携わる歯科医師・歯科衛生士を対象にした研修会と会議が開催されました。参加者は54名で、看護師さんの参加もありました。

最初に、当院輸血部部长・エイズ医療対策室長藤井先生よりご挨拶を頂きました。先生いつもありがとうございます。

講演1では、タイトルに沿って非常に分かりやすい内容のご講演を

頂き、講演2では「血友病と歯科治療」「薬害エイズ」「HIV感染症と歯科治療」「歯科診療への期待」について、また話題提供では、厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症の医療体制整備に関する研究」研究分担者の宇佐美先生よりご講演頂きました。会議は、当院主席副病院長 柴先生の司会の下、行われました。

HIV治療法の進歩によってHIV陽性者の歯科治療内容は一般歯科治療に変化したこともあり、患者の中にはライフスタイルに合わせた近医歯科受診を希望している方も多くおられます。しかしながら中国四国ブロックではHIV陽性者の歯科医療体制構築が未だ進んでいない地域が存在するのが現状です。行政および歯科医師会にその必要性を十分理解して頂き、より強固な協力体制を築くと共に、U=U:「効果的な治療を続けていればHIVは感染しない、他者に感染させる可能性がゼロになる」という合い言葉を、多くの医療従事者に啓発していく必要があると感じました。

一方今回の会議の中で、具体的な目標を掲げて体制構築に取り組んでいる地域もみられたことは喜ばしく、今回議論された内容を基に多くの地域での体制構築が進展および改善されることを期待します。



- ◇開会の挨拶 (広島大学病院 藤井輝久先生)
- 講演1「HIV感染症の基礎と最近の話題」
- 講師:川崎医科大学 血液内科学 教授 和田 秀穂先生
- 講演2「歯科への期待メッセージ」
- 講師:特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権<MERS> 事務局長 池上 正仁氏
- 話題提供
- 「HIV感染者に対する歯科医療の現状と将来への期待」
- 講師 国立病院機構名古屋医療センター歯科医長 宇佐美 雄司先生
- 議題
- 「中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の歯科医療体制構築について」
- 司会:広島大学病院 柴 秀樹先生
- ◇開会の挨拶 (広島大学病院 柴 秀樹先生)



2019年12月1日

世界エイズデー
World AIDS Day

広島市・障がい者就労支援協議会と共催し一般向けHIV/AIDS講演会を開催。32名来場し、好感触得る。

12月7日（土）広島市内で一般に向けた講演会を開催しました。エイズ医療対策室長藤井医師から基礎的なHIV/AIDSの講演、そして就労支援事業所徳永氏からは、就労支援の実践的な支援の内容でした。来場者は就労支援施設の従事者だけでなく、学生や一般市民の参加もあり、熱心に耳を傾けている様子でした。

エイズ医療対策室ソーシャルワーカーよりHIV抗体検査を案内し受検啓発を行いました。（SW 大成）



講演の様子。熱心に聞き入る来場者。



令和元年度世界エイズデーポスターコンクール
「高校生の部」最優秀賞作品



【第15回HIV/AIDSソーシャルワーカー・看護師ネットワーク会議、研修会】

♪松山にて開催。グループ討議など盛会に終わる♪

10月19、20日にリジェール松山（松山市）にて「第15回HIV/AIDSソーシャルワーカー・看護師ネットワーク会議、研修会」を開催しました。中国四国ブロックの拠点病院のうち27施設、ソーシャルワーカー19名、看護師21名が参加し、広島大学病院エイズ医療対策室長藤井医師、大阪HIV薬害訴訟原告団森戸氏の講義の後、薬害被害者の支援について拠点病院の役割を再確認し、グループワークを行いました。グループワークでは各県、地域ごとに着席し薬害被害者が来院した際の支援について話し合い、全体で共有をしました。各グループ、薬害被害者が通院していない施設の方が多く、どのような支援を提供できるのか、または行う必要があるのか、イメージを共有することから始まります。各地域の特徴もあり、時間を追う



地域ごとに活発なグループワーク。

毎に盛り上がり時間が足りないくらいの状況でした。

2日目は東京医療センター ソーシャルワーカー小笠原講師による長期療養についての発表や愛媛大学附属病院の事例提供があり、充実した内容で終わることができたと思います。

中国四国ブロックのソーシャルワーカー、看護師が一同に話し合うことは、HIV/AIDS診療の情報共有だけでなく、地域の実情を理解し合い、労う、貴重な時間です。

次年度の開催に向けて現状の課題を整理し、充実した会議、研修会を目指して準備を進めて参ります。

（SW 大成）



グループ発表でアイデアを共有。





HIV診療チーム新メンバー紹介

HIV診療チームは、血液内科医師・総合診療科医師・薬剤師・看護師・ソーシャルワーカー・公認心理師・歯科衛生士などで構成しています。

おおひがし としかず

～今号は広島大学病院薬剤部、大東 敏和 さんをご紹介します。～



新しくHIV診療チームに加わることになりました、薬剤部の大東敏和です。関西生まれの関西育ちですが、7年前に広島に赴任しました、好きなサッカーチームはサンフレッチェ広島になりましたが、関西弁は抜けないようです。薬剤師になって13年目です。今まで、糖尿病治療や緩和医療を中心に業務に携わってきました。HIV診療のことについて、日々、たくさん学ぶべきことがあるなぁと感じておりますが、HIV感染者と健常人の平均寿命に差がなくなっている中で、HIV感染者の生活習慣病指導や緩和ケアについて今後貢献できればと考えております。これからよろしくお願ひします。



【令和元年度 中国・四国ブロック エイズ治療ブロック/中核拠点病院等看護担当者会議報告】

広島大学病院エイズ医療対策室の看護師 佐々木美希です。

令和元年11月9日、県立広島病院にて今回4度目となる『中国・四国ブロック エイズ治療ブロック/中核拠点病院等看護担当者会議』を開催しました。

中国四国ブロックにはエイズ診療中核拠点病院が14施設あり、HIV担当看護師が20名参加しました。

会議の中では、当室室長の医師 藤井輝久先生より「HIV最新のトピックス」の講義の他に、HIV担当経験年数別に別れグループ討議を行いました。

中核拠点病院それぞれの施設現状を共有し、HIV看護を充実させるための課題や、それに対する具体的な活動について活発な意見が交わされました。

会議終了後のアンケート結果では「自施設にいかせる内容だった」「ひとりじゃないと思える」「明日から早速実行してみる」等の意見が聞かれました。

中核拠点病院全体の3割(4施設)は、自施設内で、看護師1名体制(自分1人)で担当している為、日々の課題や活動を共有する相手が身近にいない状況もあり、この会議が、担当看護師のモチベーション維持になる位置づけであると感じました。

当室では、中核拠点病院の担当看護師の活動を支援し、さらに充実した患者支援に繋がるよう、努めていく必要があると感じました。



会議・グループ討議
意見が関連に交わされる様子



旧年中は大変お世話になりました。
2020年もみなさまにとって素敵な一年となりますように。
感謝を込めて、ご健勝ご多幸を祈念申し上げます。

